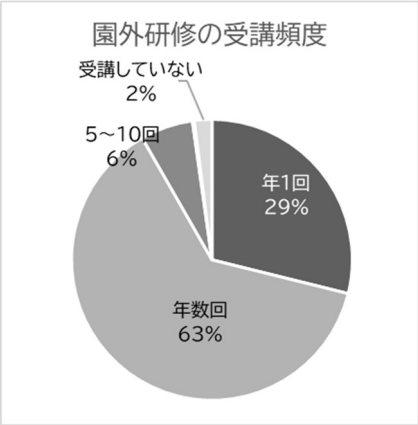
令和4年度 施設実態調査（幼児教育部分抜粋） 《保育所・保育所型・幼保型認定こども園》

※有効回答数 449

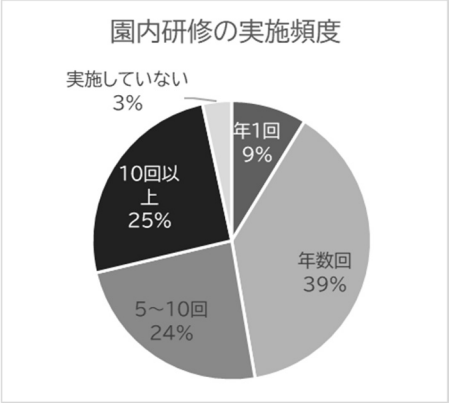
問6（1）園外研修の受講頻度

一人当たりの園外研修の受講頻度は年1回から年数回の施設がほとんどであった。



（2）園内研修の実施頻度

園内研修の実施頻度は、実施していない園から年間10回以上実施する園まで、その頻度も様々であった。



（3）（4）（5）公開保育の実施状況等

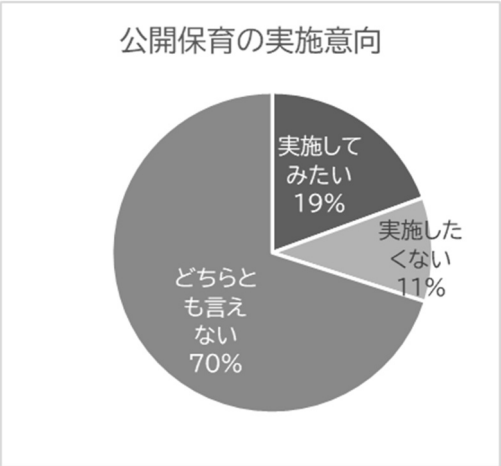
〇令和4年度に、公開保育を実施した園は、60園であった。

〇実施園のうち57園が「ア とても有意義だったのでまた実施したい」だったが、うち3園は、「イ 準備が大変だったので、実施したくない」と回答した。

（参考）回答選択肢

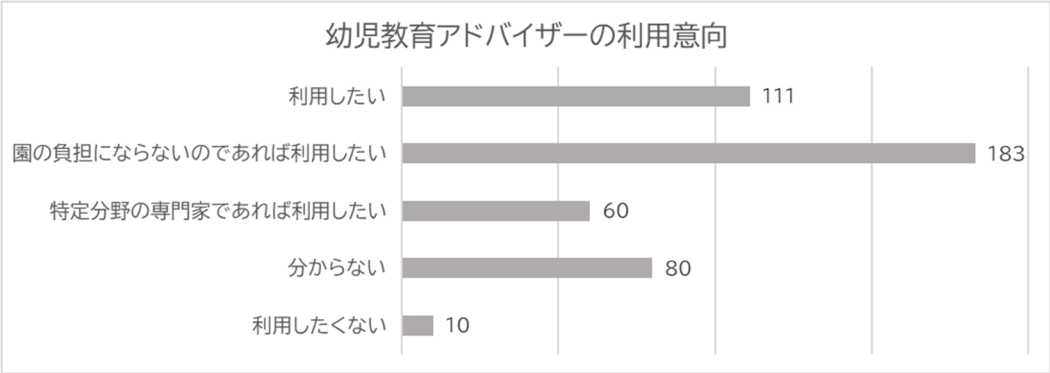
ア　とても有意義だったので、また実施したい
イ　準備等が大変だったので、実施したくない
ウ　あまり効果が無かったので、実施したくない

〇今年度実施していない園に対し、今後の実施意向を尋ねたところ、実施に前向きな園も2割ほどあった。

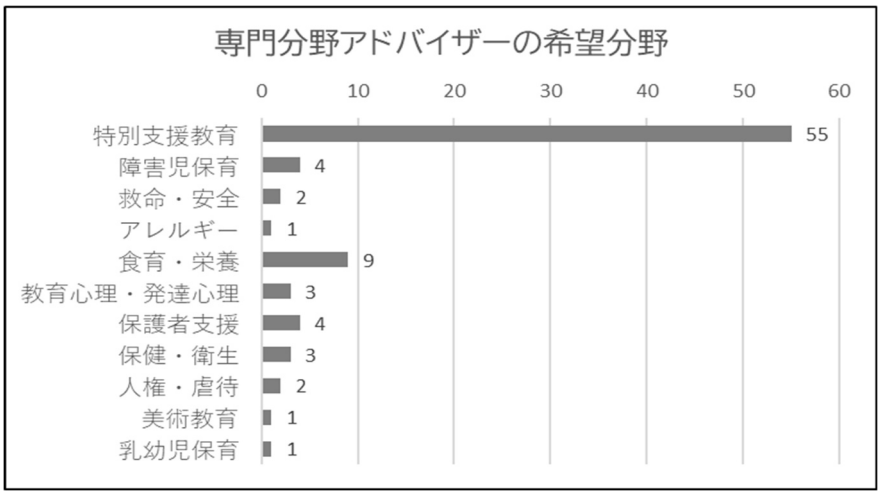


（6） 幼児教育アドバイザーの利用意向

幼児教育アドバイザーが県や市町に設置されたら、利用したいか、その意向を尋ねたところ、以下のとおりであった。



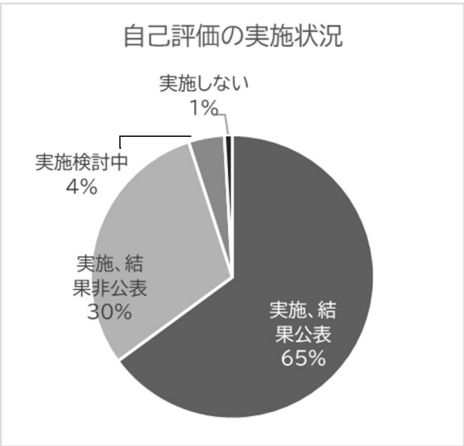
なお、特定分野のアドバイザーの利用希望分野は、特別支援教育(障害児保育)がほとんどであった。そのほか、「食育・栄養」や「保護者支援」もあった。

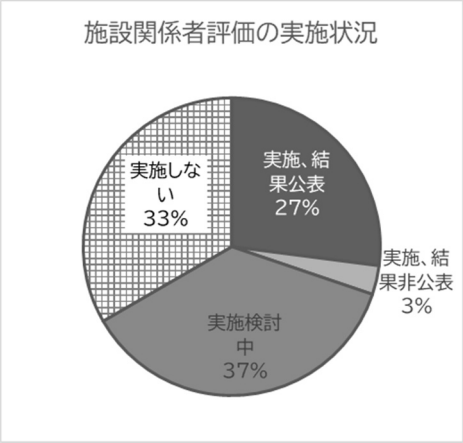


（7）（8）「自己評価」の実施状況と「学校関係者評価」の実施状況

自己評価は、95%の園が実施し、公表している園も 65%であったが、

施設関係者評価は、実施している園が 30%であった。



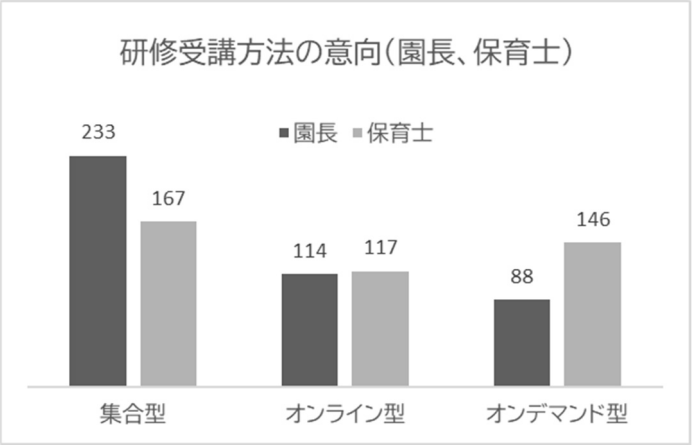


（9）研修の受講方法（集合型、オンライン等）

研修の好ましいと考える受講方法について園長と保育士それぞれの考えを聞いた。

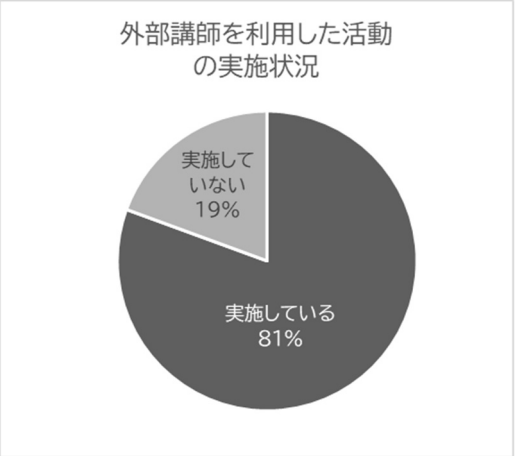
ここ数年、あまり実施できていなかった集合型研修への意向が、園長、保育士どちらも高かった。

園長と保育士のオンデマンド研修に対する考えには、差があった。



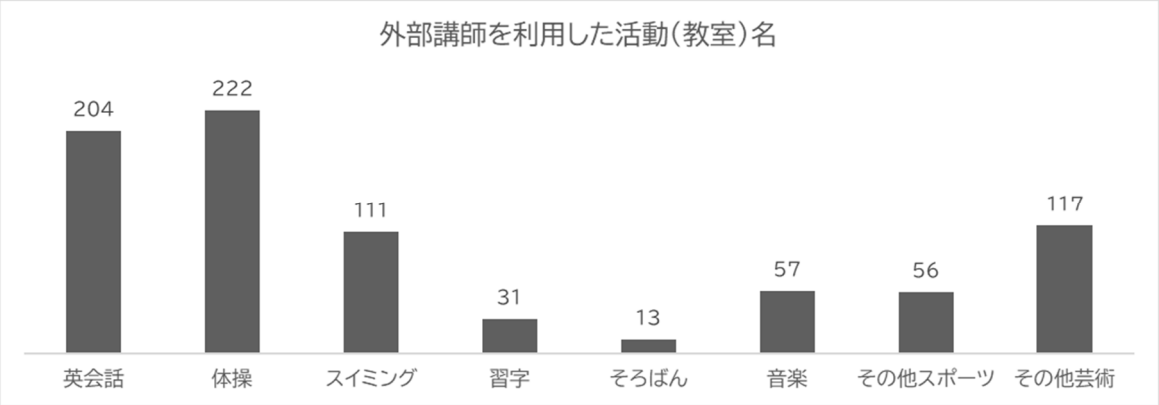
（10）外部講師を利用した活動の実施状況

ほとんどの施設で外部講師を利用した活動（教室）を実施していた。

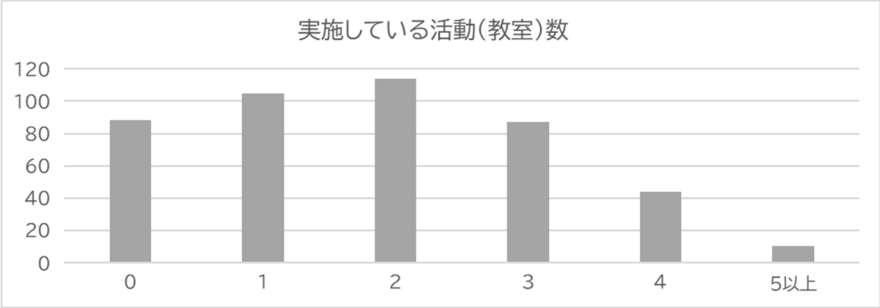


（11）外部講師を利用した活動（教室）の内容

教室の内容については、「体操教室」と「英会話」が多かった。

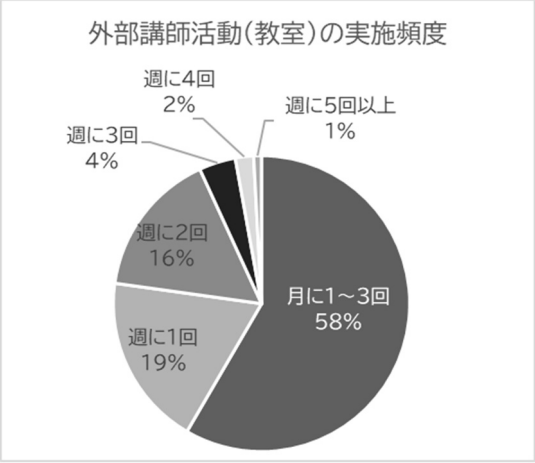


また、実施している教室の数は、2種類が多かった。



（12）外部講師を活用している頻度

外部講師を活用した教室の実施頻度（複数実施している園は、その合計した頻度）を聞いた。月に1～3回の実施頻度が最多であった。



【参考】幼児教育に関するご意見（自由記述）　　※一部を抜粋して掲載しています。

- 外部講師を呼んでの活動も大切だが、自然と向き合って遊んだり、体を動かすことも大切だと思う。

- 保育士等の質の向上も必要だが、配置基準の見直し等保育環境の質の向上も検討してほしい。

- 幼児期の子どもが安心して生活できる集団の人数は今の基準よりもっと少ない方がいいと思う。保育士の配置基準が今のような状況で、職員も子どもも安全・安心が保障されているとは言えない中で、「質」だけ向上させるのは難しいと思う。「グレーゾーン」といわれる子どもも多く、保護者の要望もどんどん増えていくような中で、保育者への負担は増えるばかりで「質」の向上よりも安全を守ることで精一杯な場面がとても多いということを知ってほしい。

- 教育保育の質の向上についてよく議論される中で、外部研修の回数を増やす方法がとられることが多いが、外部だけでなく、内部でしっかり「子どもたちの姿」や「保育内容」を検討することも必要だと思われる。その際に、今の職員配置では、工夫はしているものの、話し合いのための時間が限られている(職員の休憩時間の確保も必要)。配置基準の見直しや保育補助の活用などを行わなければ、現在の体制では難しい。

- 質の向上という意味では、保育士の人数が十分足りていると、保育士にも余裕ができて一人ひとりの子どもに丁寧に対応できる。

- 子どもを真ん中に、子どもたちの主体性を大切にする保育をしていきたい。。学校教育もその方向に向かってほしい。

- 保育の質を向上させるために園内外の研修等を充実させたいと思うが、日々の業務時間の中に、その要する時間をつくることが難しいと感じている。

- 園長自身の意識を高めるため、経営論、心理学、教育学等の研修の機会を増やす

- コロナ禍で参加者同士での話し合い形式はまだ無理なのかなと思うが、他の保育士との意見交換で、共感できる点や参考になった点が分かれば質の向上に役立つ情報となりうると思う。

- 子どもと関わる時間のほかに、自分の保育を振り返る記録や研修の時間の確保も大切にしていきたい。

- 保育の質の向上には、保育環境の充実と共に保育士の人数・処遇等が必要となってきます。特に、保育士の人数・待遇がもっと優遇されたら、保育者のモチベーションも上がり保育にも良い影響がでてくると思う。

- 園でそれぞれの職員へ保育教育の理念について共通理解。子ども達に関わる人的環境としての大人がスキルアップするために園内外での研修会への参加。研修会に参加するための職員数や保護者への理解の周知。第三者に自園の保育教育を見ていただき評価をしてもらう事。

- 外部研修だけでなくその年ごとにテーマを決め園内研修を充実せる。

- 保育の質の向上の為、社会人としてのマナー研修や保育士としての意識の向上へつながるような研修等もあるとよいと思う。

- 「聴く力」・「見て学ぶ力」・「自分で考え、言葉にできる事」等、身につけることの大切さを感じている。就学前にしっかりと身に付くよう努力する必要がある。

- 正規職員だけでなく、非正規職員にも学びの機会が必要だと思います。非正規職員の場合研修の機会が少なく、古い保育の方法を未だに実践している保育士も多いのではないかと思います。それが問題になった子どもの虐待と関係があると考えます。

- 一人ひとりの保育士が様々な意見や考えをもっています。現場のリーダーが判断して、その時の場面や状況に応じた助言や指導を保育士に的確に行っていくことが大切ではないかと思います。よいことも悪いことも言い合える職場。職員の和が、子ども達がのびのびと過ごせるような温かい保育につながっていくのではないかと考えます。(保育士自身がスキルを磨こうとする意識がなければ、保育の質の向上は難しいと考えます。)

- 子どもを取り巻く環境や状態が複雑になり、求められるものも多様化している。
  それぞれに対し、対応できるようスキルを身につけることが必要。

- ・職員の教育、保育の振り返る時間の確保。
  ・職員が教育、保育のための教材準備等の時間確保。
  ・職員の負担軽減のための支援員の配置等。

- 1日研修では職員は 1 人しか派遣できず出張復命書を回覧しても知識が定着しにくいので、一回につき 10～15 分程度のオンデマンド研修をスマホ等で同じ研修を全職員が受講でき共有できるような研修が出来たらよいと思う。また繰り返し視聴できるようであれば知識も定着しやすく、実践の様子などもあればより理解も深めやすいのではと思う。

- ・教育委員会、県がもっと発信していただき、幼保連携等を深めていきたい。
  ・幼児教育間も、これからは連携を深める必要がある。

- 保護者だけでなく社会全体で子育てを支える仕組みがもう少し充実出来たらいいと思います。保育士不足でもありますので賃金の改善や、働きやすい職場づくりをすることで、保育の質も上がっていくのではと思いました

- 職員間の共通理解とそのための会話等による意思の疎通を踏まえて、園の理念に近づくように努力していると思っています。主体的、アクティブラーニング、自己肯定感等々のキーワードが次から次に示されるので、その理解と実践については、目の前の子どもの姿をもとに、試行錯誤もありますが子どもにとっての学びとなるような教育・保育内容が求められていると感じています。

- 外部講師に頼りすぎると、自園のしたい保育ができず、新任の保育力の低下が懸念されるため、外部講師を依頼する予定はない。
  コロナ禍で他園との交流、意見交換が思うようにできなかったので、他園の保育を見て、自園の保育の振り返り、改善につなげていきたい。

- 「子ども主体」の概念の統一化とその実践方法含めた公開保育の義務化

- コロナ禍になり、オンライン研修会が主流になったおかげで、限られた職員だけでなく非常勤職員も含めて、全職員が様々な研修会に参加できるようになったことは、教育・保育の質の向上に大きな効果を得ることができたと思う。

- 園児に対しては、もっと、色々な経験を積ませたかったが、コロナ禍のため、制限が多く残念だった。保護者支援も大きな課題であるが、親育ては、なかなか難しいと考えています。

- 適切な職員配置・保育教諭の待遇改善・保育教諭の視野を広げるためにも積極的な他園の視察

- 小学校の学級崩壊や子どもの荒れが今は大変だと言われています。幼児教育のうちから遊びや行事などのいろんな経験を通して、挑戦すること、勝ったり負けたり、嬉しい悔しいなど色んな気持ちを味わい、自分の気持ちを発表したり、数、文字などに触れていることで小学校での生活をスムーズに送ることにつながると考えます。そのため、幼児期の教育は大変大事であることから日々の保育の質をあげることが重要です。保育士の重要性が問われ、勉強する機会が増え、保育士の地位がこれからもっと上がっていくような取り組みがあればと思います。

- ・保育士自身の意識にも差があり、キャリアアップ研修だけでなく主体的に学ぶ意欲を高められるよう、模索しているところである。
  ・当園では外部講師を招いての時間が複数あるが、そのことのみを「幼児期の教育」と思っていらっしゃる保護者も多いので、園全体の質の向上を図った上で、良い発信をしていきたいと思っている。

- 子ども主体の保育を常に意識して保育しています。その保育を見える化し、保護者と共有することで、子どもの育ちを保護者と一緒に共有して支える園になりたいと考えています。子ども達が安心して遊ぶ環境が学びにつながるので、子どもが安心する人権を守る保育、遊びこめる環境、玩具など日々研修をしているところです。保護者に見せる行事から日頃の保育が見える行事に内容を変えています。この取り組みが職員の働き方改革にもつながると思います。

- コロナ禍で変わった保育の方法だが、「保育の質」の観点から検証していく作業が必要であると思う。
  職員の質の向上も必須であり、主流となったオンライン研修も取り入れながら、一人一人が自主性をもって学ぶことができるよう支援していきたい。

- 職員各自が研修した学びについて分かち合う時間が取れたら資質向上に繋がると思っているが、なかなか時間が取れない状況である。

- 現在の保護者の子育ての質の低下がみられるように思う。その影響がこども達に及んでいるように感じる。そこの部分を保育教諭がどのように対応していくか意識付けの研修会等があれば実施してほしい。